

**頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
—アジア・アフリカ持続型生存基盤研究のためのグローバルプラットフォーム構築—
報告書**

**アジア・アフリカにおける持続型基盤の発展に寄与する
ものづくり研究の可能性**

派遣者：金子 守恵

派遣期間：2013年2月14日～2月23日

派遣先：ライデン大学南アフリカ研究所（オランダ）

キーワード：アフリカ研究所，在来知，資源，

1. 研究課題について

アジア、アフリカに暮らす人びとは、地域の自然環境、コミュニティ内の社会関係、さらには外部との交流にあわせて、日々の生活に必要なもの（＝日用品）をつくりだしてきた。この研究では、ローカルな技術的实践とグローバルな環境変化や社会的な制度が交差する場としてのものをつくる身体（技法）に注目し、コミュニティにおける知（＝在来知）の共有と配分の過程を描き出すことによって、アジア・アフリカにおける持続型生存基盤の発展に寄与することをめざす。具体的には、①調査研究、②共同研究／協働、③研究発信の3点に留意して研究課題を遂行する。今年度は、②海外の研究機関との共同研究／協働についての可能性を模索することと③国際学会での発表を介した研究発信に取り組む。

2. 派遣の内容

2013年2月15日～2月22日にかけて、オランダ、ライデン大学アフリカ研究所において、アフリカの持続型基盤の発展に寄与するものづくりに関わる資料収集をおこなった。今回の渡航は、今年度計画している研究活動のなかでも、②海外の研究機関との共同研究／協働についての可能性を模索することにかかわる。また、アフリカ研究所のジョン・アビンク博士から、オランダにおけるアフリカ研究の現状について情報を得るとともに、今後の共同研究の可能性を模索した。これに加えて、ワガニンゲン農業大学において、アフリカに関わる研究プロジェクトの現状について情報を得た。

3. 派遣中の印象に残った経験や体験

今回の派遣では、オランダのアフリカ研究所における研究環境に感銘をうけた。当然のことではあるが、優れた研究者の存在によってのみ意義深い研究ができるというのではなく、研究に関わる資料を管理し、それを管理しながら研究所以外の研究者にもアクセスできるように窓口をひろげてくれるスタッフの存在や、研究者がだした成果を、より多くの人びと（一般の人や、官公庁、企業など）がアクセスしやすい様式で提示したり、より早く成果を届けるために SMS を活用するスタッフの存在など、さまざまな人の知恵や工夫によって研究環境が維持され、またより改善されている点が非常に印象深かった。

日本と比べて、ヨーロッパに暮らす人びとはアフリカとさまざまな点において距離が近いといえるが、研究者だけではなくアフリカ研究所にかかわるスタッフは、研究所での活動を介して、アフリカ研究や研究の実践に関して専門的な知見と視点をもちあわせていることが伺えた。例えば、図書館の司書が、客員研究員がきたときなどに、その研究者のテーマに関連する資料をリスト化してくれるなど、個別具体的な対応ができるのは、それらの資料の内容にも精通しているからこそのことと考えられた。このよ

うなスタッフの専門性の構築は、もちろん個々のスタッフの意識の高さによるものであるが、それと同時に、アフリカ研究所の研究者とスタッフとの良好なコミュニケーションにも支えられているものという印象をうけた。

4. 目的の達成度や反省点

オランダのアフリカ研究所は、50年以上の歴史のある研究所で、その活動は研究という範疇にとどまらずより実践的な領域にまでひろがっている。今回の派遣では、アフリカの人びとの生活にかかわるものの製作や流通に関して、研究所の何人かのスタッフとのあいだに共通の関心を見いだすことが難しかったが、調査研究と実践を結びつけたプロジェクトやワークショップの進め方について参考にすべき点に気づけたことが有意義であった。国家レベルの政策や経済的な動向に関して、この研究課題に十分にとりいれられていない点を、今後どのように位置づけていくのかということが、今回の渡航に関してえられた反省点である。

5. 今後の派遣における課題と目標

この研究課題における国家レベルの政策や経済的な動向についての視点は、今後アジスアベバ大学の研究者との共同研究等のなかでとりこんでいくべき課題と考えている。来年度に予定しているアジスアベバ大学サウスオモ研究所・博物館における特別展示の際には、小さな単位としての地域における、ものの製作とその販売活動を、村の人が連続的にたずさわることにより、外部経済とは異なるローカルな基準やそのよさを、博物館という場での展示を利用しながら発信し、それを販売・流通するというプロセスそのものを記録検証していくことも目標にしている。



写真1 ライデン大学アフリカ研究所所長 Prof.Dr.Ton Dietz に図書室を案内してもらう



写真2 ライデン大学内の様子



写真3 ライデン大学アフリカ研究所の図書室には、日本のエチオピア研究に関する英文雑誌がおかれていた